

組合員の皆様へのメッセージ

昨今、飼料価格の高騰や鳥インフルエンザなど大変なことが多いですが、安全・安心な卵をお届けすることをモットーに、日々鶏の健康に気をつけています。これからも、組合員のみなさんへ元気な鶏が産んだ卵をお届けしていきます。ぜひ、産直白玉卵を食べてみてください。

木村養鶏 総務部長 木村多基男



◀左から、
コープあおもり 川端産直
兼供給企画担当
木村養鶏 木村多基男さん
木村養鶏 木村幸男さん
コープあおもり 川村商務



木村養鶏は、平川市小杉地区にある養鶏業者さんです。養鶏場で直売もおこなっており、通常の卵はもちろん、もったいない卵が減らせるようにと、二黄卵（黄身が二つ入った卵）などの規格外の卵を直売しています。お近くに来られた際は立ち寄ってみてください。（青森県平川市大字小杉字川崎11）

木村養鶏から 白玉産直卵が出荷されるまで



①鶏が産んだ卵を手作業で丁寧に集めます。



②集めた卵に光を当て、血卵や異常卵がないかチェックします。チェックされた卵はそのまま、ベルトコンベアーで洗浄機に運ばれ洗浄されます。



③洗浄された卵は、機械でサイズ別に分けられます。分けた卵は人の目で異常がないか確認します。



④サイズ別に分けた S~ML サイズの卵をモールドパックに詰め、賞味期限を印字したラベルを入れて蓋を閉じます



⑤箱詰めされた卵は、コープあおもり浪岡合同センターに運ばれます。

ぜひ、コープあおもりの産直卵を食べてみてください！

8月号と9月号で、コープあおもりの産直卵について紹介しました。トキワ養鶏さんと木村養鶏さんと、鶏の種類や殻の色、食べているエサなどに違いがあります。まだ食べたことがない方は、是非この機会に、コープあおもりの産直卵を試してみてください。

独自配合のエサで育った健康な鶏が産む卵

木村養鶏の卵



コープあおもりでは、先月紹介したトキワ養鶏さんと今月紹介する木村養鶏さんに産直産地として、卵を供給して頂いています。今回は、白玉産直卵を生産している木村養鶏さんを紹介いたします。

木村養鶏や鶏について、木村幸男さんと息子の木村多基男さんに教えてもらいました。

木村養鶏について

1970年（昭和45年）頃幸男さんが創業。当初は、今の場所から少し離れたところに養鶏場があり、複数の養鶏農家が集まった組合の1農家として養鶏に取り組んでいました。

しかし、1991年（平成3年）のりんご台風により、組合農家の鶏舎が軒並み倒壊してしまつたため組合は解散してしまいました。木村養鶏の鶏舎もこの時、倒壊してしまいましたが、当時雛を育てていた現在地に養鶏場を移し事業を存続しました。現在は約10,000羽の鶏

モールドパックでお届け

「白玉産直卵」は紙で出来たパックでお届けしています。衝撃に強く、通気性がよいので卵に優しいです。また、回収とリサイクルを行っており、環境にも優しいのも特徴です。



木村養鶏の鶏と卵について

木村養鶏で飼育している鶏は、ジュリアライトという品種で、鶏の卵は月齢が進む程大きくなりますが、Mサイズの卵を安定して産んでくれる品種で、卵を使う人が求めている大きさの卵を供給することを思い、この品種にいたしました。

鶏は、青森県内の業者で飼育された卵を産み始める生後120日の鶏を導入しています。白玉産直卵として提供している卵は、生後120日〜450日までの鶏から採れた卵で、これ以上日数が経つとコープあおもりに出荷してもらっている規格の上限であるMLサイズを超えてしまふ卵が多くなるため、この日数と決めているそうです。

450日以後は、大きな卵を産むため、そのまま飼育し、一般用に提供している卵を産んでもらっています。



白玉産直卵 6個・10個

Weekで毎週ご案内、利用登録できます。色素を含まないオリジナルのエサを与え、トウモロコシだけの自然な色の黄身が特徴です。

調設備で環境を管理し生産効率を高めた鶏舎）が増えていますが、木村養鶏では、太陽光や自然の風が入るようにしています。同社の餌は、業者に依頼し、非ポストハーベスト、非遺伝子組み換えの原料を使い、トウモロコシや魚かす、大豆などをバランス良く、鶏が健康に育つように独自の比率で作ってもらっています。

また、黄身の色を濃い色にする色揚げ剤（パプリカ色素など）を使っていないため、白玉産直卵の黄身はトウモロコシ由来の自然な色をしています。

水も重要

鶏は、水が無いと餌を食べてくれないそうです。餌が粒や粉末のため、むつ（津軽弁で口の水分が持つていかれて、パサパサの状態になる事）ではないかとのことでした。ちなみに鶏は歯ではなく、砂の（砂ぎも）にあらはじめ飲み込んだ小さな石などを貯め、砂のうの強靱な筋肉のため込んだ硬い物を使つてすりつぶして餌を食べます。

鶏についてあれこれ

一日に鶏が食べる餌の量木村幸男さんによると、鶏は1羽当たり一日約110g位餌を食べるそうです。冬はたくさん食べ120g、夏は少し少なくなつて90gくらいだそうです。木村養鶏では約10,000羽を飼育しているので、1日当たり約1.1tのエサが必要になります。